
都民の私学に対する意識調査
結果報告書

平成 27 年度

公益財団法人東京都私学財団

—目次—

第1章 調査目的と調査方法	2
1. 調査目的	
2. 調査実施方法	
3. 回答者属性	
4. 調査集計結果の見方	
第2章 私立へのイメージ・評価	3
1. 私立学校のイメージ	
2. 現在在籍している学校の評価	
3. イメージと評価の差	
4. 今後の学校への期待	
5. 学校選択で重視した点	
6. 進学希望	
第3章 教育費・保護者の価値観	11
1. 許容教育費	
2. 教育費	
3. 保護者の考え	
第4章 私立の情報発信と進学理由	14
1. 学校説明会の参加有無	
2. 学校説明会参加者が注目した点	
3. 合同学校説明会参加者	
4. 進学理由	
5. 通学時間	
第5章 全体まとめ	17

第1章 調査目的と実施方法

1. 調査目的

都民の私学に対する意識を調査し、私学へのニーズ・傾向等を幅広く調査・分析することにより、私立学校の認知度向上とその課題などを抽出し、私学振興に役立てることを目的とする。

2. 調査実施方法

- (1) 調査対象 : 都内在住の10歳から20歳までの子どものいる保護者
- (2) 調査期間 : 2015年7月10日～2015年7月13日
- (3) 設問数 : 44問
- (4) 調査項目 :

①属性	⑤子どもの進学希望
②学校のイメージ(私立・公立)	⑥教育に対する意識
③子どもが在籍している学校の評価	⑦学校への期待(私立・公立)
④子どもが在籍している学校の選択基準	
- (5) 調査方法 : インターネットモニターによる調査(株式会社コアネットに調査を委託)
- (6) 有効回答数 : 3,000人

3. 回答者属性

回答者は都内在住の10歳から20歳までの子どものいる保護者であり、子どもが複数いる場合には、調査対象の子どもは一番上の子どもとした。

(1) 回答者の性別

	男性	女性	合計
件数	1,715	1,285	3,000
割合	57.2%	42.8%	100.0%
平均年齢	47.6歳	44.3歳	

(2) 子どもの人数

	1人	2人	3人	4人以上	合計
全体	1,077	1,485	366	72	3,000
割合	35.9%	49.5%	12.2%	2.4%	100.0%

(3) 調査対象の子どもの性別・学年

	合計	男性	女性	公立	私立	国立	公立一貫	不明	合計
全体	3,000	1,529	1,471	1,790	1,093	53	62	2	3,000
	100.0	51.0	49.0	59.7	36.4	1.8	2.1	0.1	100.0
小学校4～6年生	607	311	296	573	29	5	0	-	607
	100.0	51.2	48.8	94.4	4.8	0.8	0.0	-	100.0
中学校1～3年生	850	431	419	610	199	15	26	-	850
	100.0	50.7	49.3	71.8	23.4	1.8	3.1	-	100.0
高校1～3年生 (高専含む)	859	423	436	358	456	19	26	-	859
	100.0	49.2	50.8	41.7	53.1	2.2	3.0	-	100.0

	合計	男性	女性	公立	私立	国立	公立一貫	不明	合計
専修学校	12	5	7	6	6	0	0	-	12
高等課程1～3年	100.0	41.7	58.3	50.0	50.0	0.0	0.0	-	100.0
高校卒業※1	590	321	269	216	353	11	10	-	590
	100.0	54.4	45.6	36.6	59.8	1.9	1.7	-	100.0
その他※2,3	82	38	44	27	50	3	0	2	82
	100.0	46.3	53.7	32.9	61.0	3.7	0.0	2.4	100.0

※1 大学生・専門学校生・進学準備中・高校卒業後就職・無業など

※2 インターナショナルスクールなど

※3 フリースクールなど。学校種別は質問の対象外とした。

4. 調査集計結果の見方

本調査報告書は以下の表記に基づき、作成している。

- (1) 「全体」「n」: その質問に答えた人数
- (2) 在籍者: 現在その学校種別に在籍している子ども(卒業生を含む)のいる保護者
- (3) 回答者の比率(%): 小数点1位の数値
- (4) 平均: 各項目の中央の値をとり、平均を算出

また、内訳同士の比較において、2つの種別で有意差が認められた項目には「*」で表示している。また、3つ以上の種別で有意差を検定する場合は、全体平均と比較をし、差が見られた項目には、網掛けで表している。

「有意差」は、有意水準5%の検定を行い、差が認められたことを表す(95%の確からしきで差があるといえる)。

第2章 私立へのイメージ・評価

本章では、回答者が持つ「私立学校のイメージ」、「現在通う学校の評価」、「学校選択で重視する点」や「進学希望」を公立学校と比較し、私立が置かれている現状を把握する。

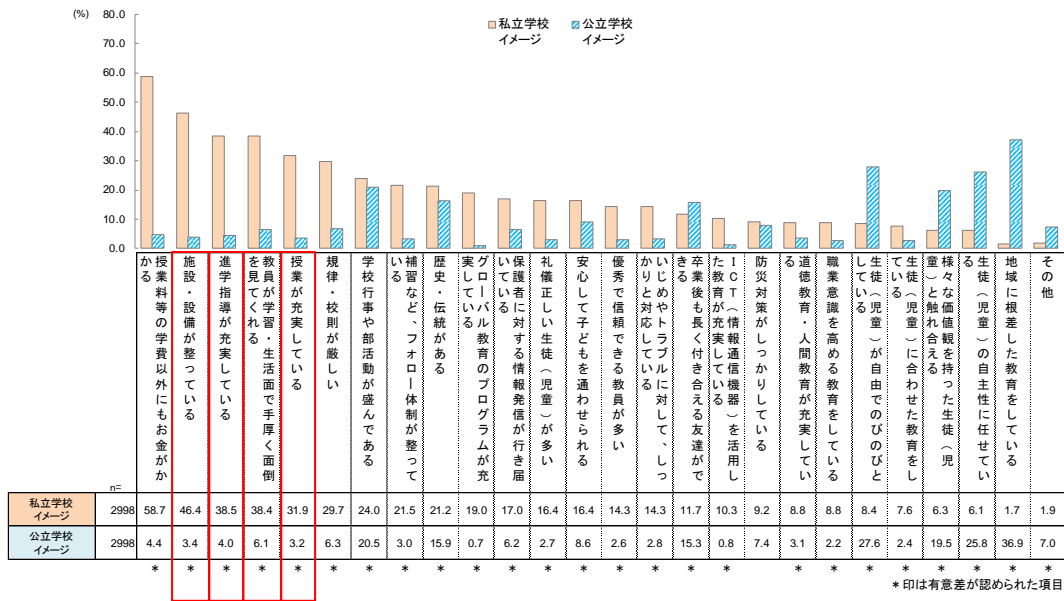
1. 私立学校のイメージ

私立学校に対するイメージは「施設・設備が整っている」「進学指導が充実している」「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」「授業が充実している」といったイメージがあり、この点は公立学校に対するイメージと回答率の差が見られる(図表①)。

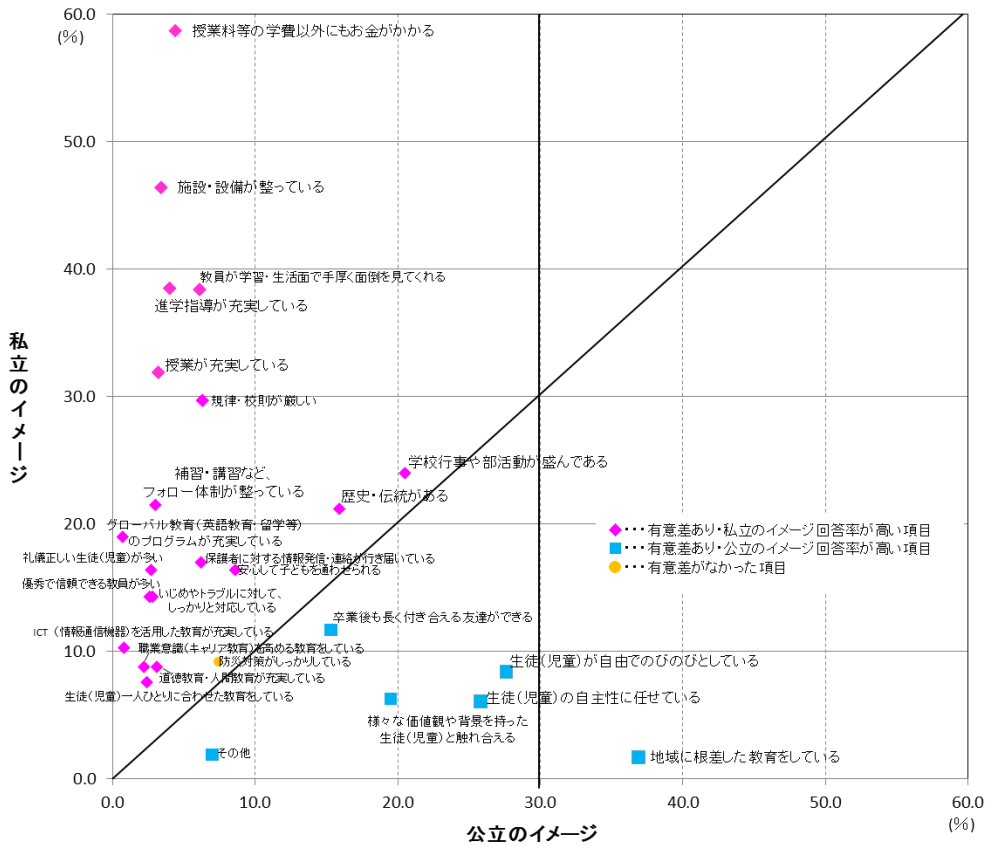
また、X軸を公立のイメージ、Y軸を私立のイメージとしてイメージを比較したところ、上記のイメージの他に「補習など、フォロー体制が整っている」「グローバル教育のプログラムが充実している」「礼儀正しい生徒が多い」「保護者に対する情報発信が行き届いている」「いじめやトラブルに対してしっかりと対応している」「優秀で信頼できる教員が多い」「規律・校則が厳しい」といった項目が公立学校よりも回答率で10%以上高い(図表②)。

一方で、私立学校に対して「授業料等の学費以外にもお金がかかる」というイメージは58.7%で、他の項目と比べて高い(図表①②)。

図表① 私立学校のイメージと公立学校のイメージの差



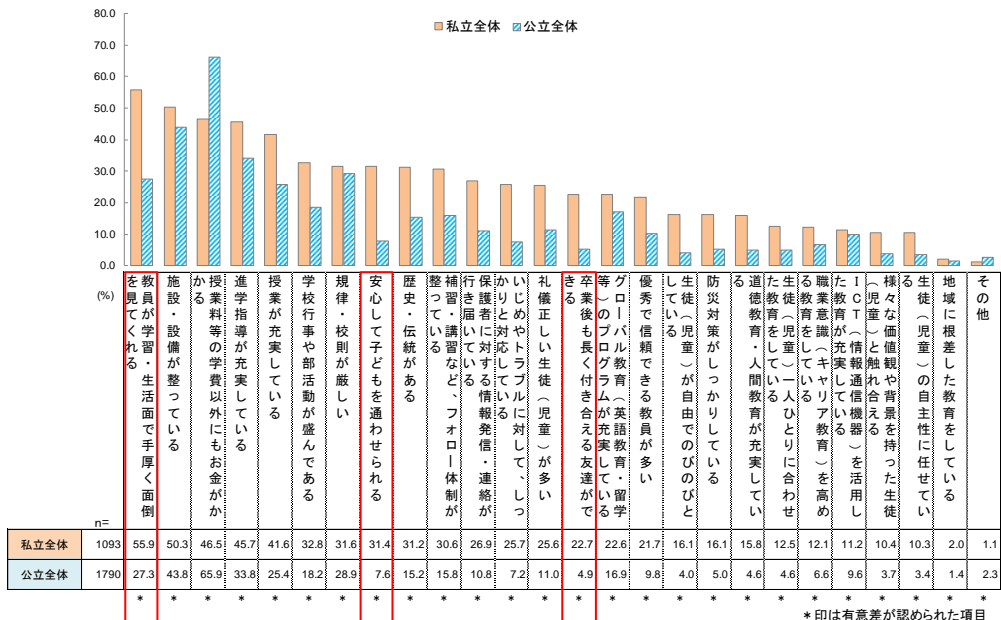
図表② 私立学校・公立学校のイメージ比較



私立学校のイメージについて、私立・公立在籍者の回答状況を比較すると、**私立在籍者は、面倒見の良さや授業の充実のほかに、保護者に対する情報発信、いじめやトラブルの対応といった点も含めて、総合的に私立に安心感を持っていることが表れている。**

一方、「授業料等の学費以外にお金がかかる」は公立在籍者の回答率が高い。「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」「安心して子どもを通わせられる」「卒業後も長く付き合える友達ができる」といった実際に私立に通わなければ実感できないことについては、私立在籍者と公立在籍者で回答率に差が見られる(図表③)。

図表③ 私立在籍者による私立学校のイメージと、公立在籍者による私立学校のイメージの差

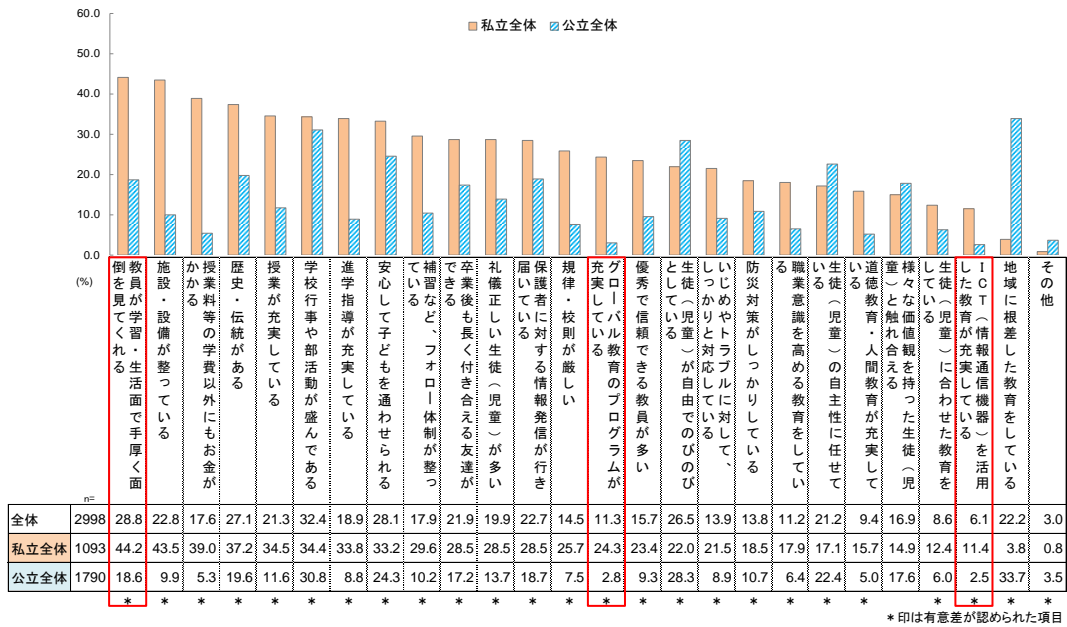


2. 現在在籍している学校の評価

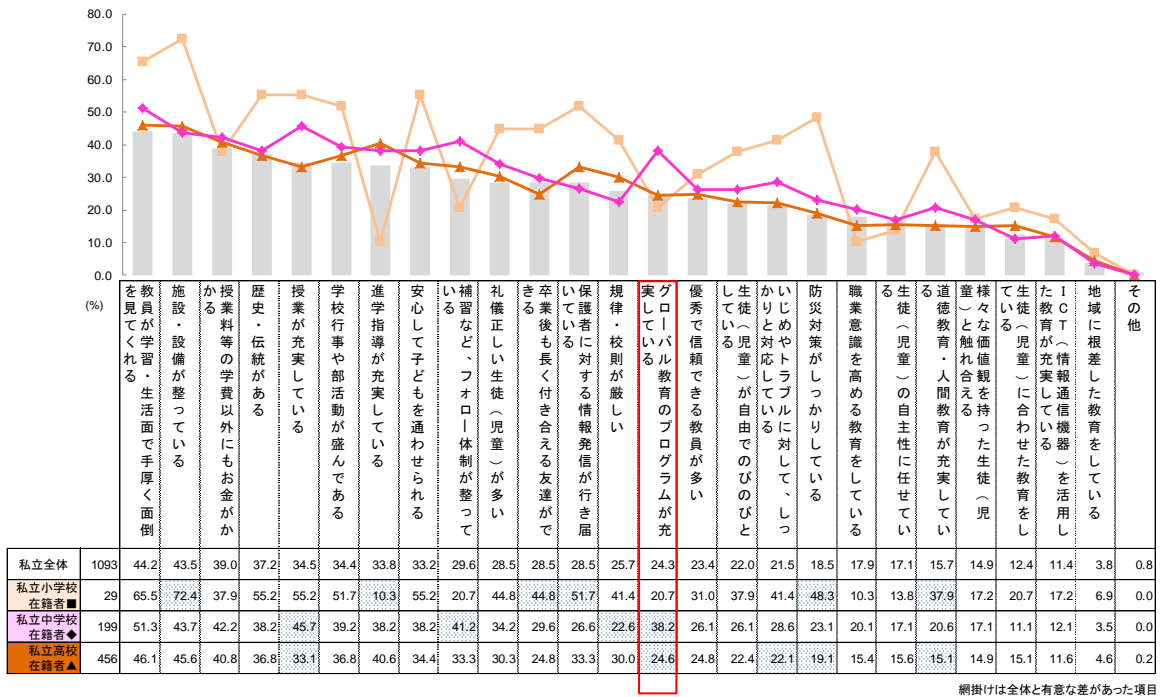
次に、現在子どもが在籍している学校について、その評価を聞いた。私立在籍者は「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」の回答率が44.2%と最も高い。その他の項目も公立と比較して、全体的に回答率が高い(図表④⑤)。

近年注目されている教育「グローバル教育」「ICT教育」に関係する項目では、公立在籍者の評価と比べ、私立在籍者の評価がいずれも高い(図表④)。特に、私立中学校のグローバル教育への評価が高い(図表⑤)。

図表④ 現在在籍している学校の評価



図表⑤ 現在在籍している学校の評価(私立小学校・中学校・高校別)

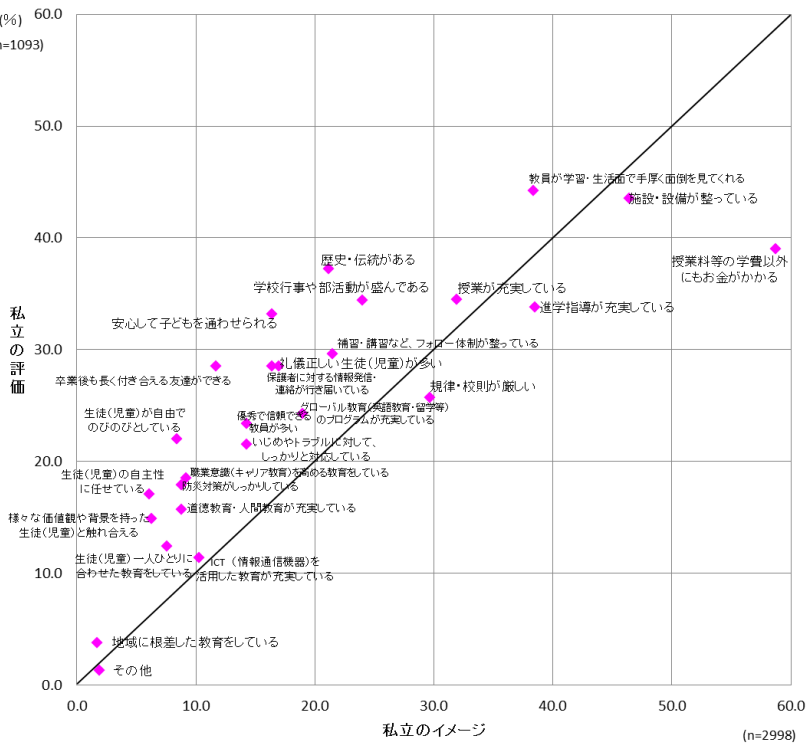


3. イメージと評価の差

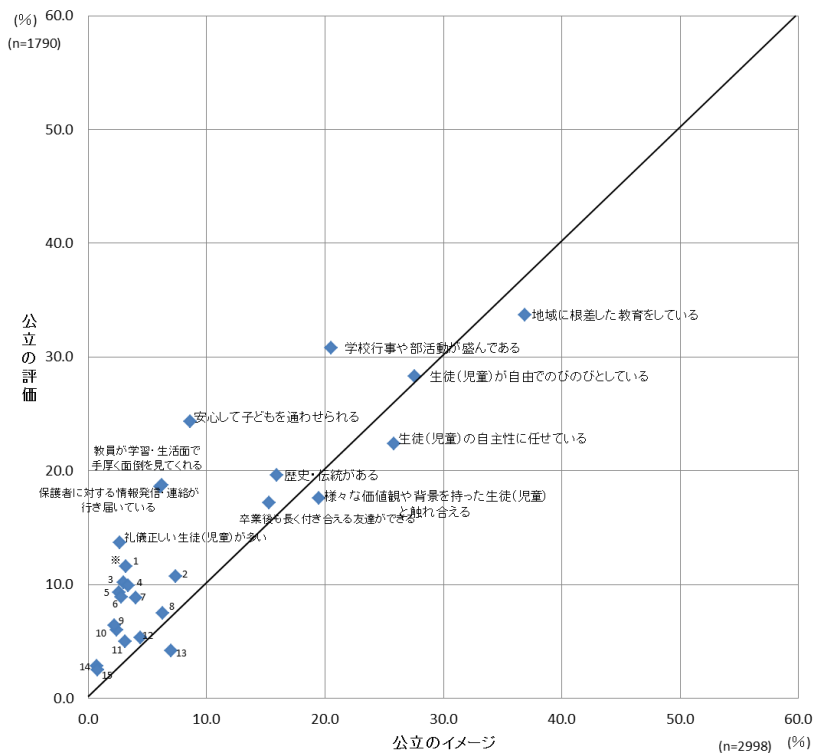
私立学校のイメージと評価の相関をみたところ、私立在籍者は多くの項目でイメージと近いが、それを上回る評価をされていることがわかる(図表⑥)。

公立学校のイメージと評価との相関(図表⑦)と比較すると、私立学校は教育面でのイメージや評価が公立学校よりも高いことがわかる。

図表⑥ 私立学校のイメージと評価



図表⑦ 公立学校のイメージと評価



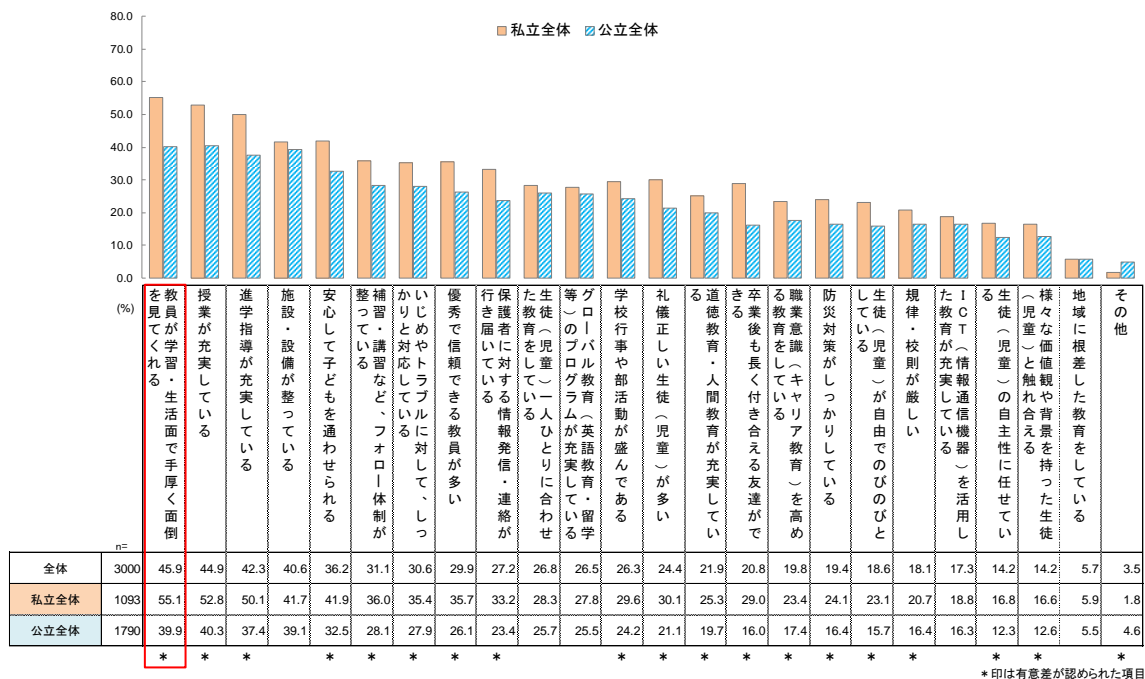
※図の1～15は以下の項目と対応している。
 1.授業が充実している 2.防災対策がしっかりしている 3.補習・講習など、フォロー体制が整っている 4.施設・設備が整っている 5.優秀で信頼できる教員が多い 6.いじめやトラブルに対してしっかりと対応している 7.進学指導が充実している 8.規律・校則が厳しい 9.生徒(児童)一人ひとりに合わせた教育をしている 10.職業意識(キャリア教育)を高める教育をしている 11.道徳教育・人間教育が充実している 12.授業料等の学費以外にもお金がかかる 13.その他 14.グローバル教育(英語教育・留学等)のプログラムが充実している 15.ICT(情報通信機器)を活用した教育が充実している

4. 今後の学校への期待

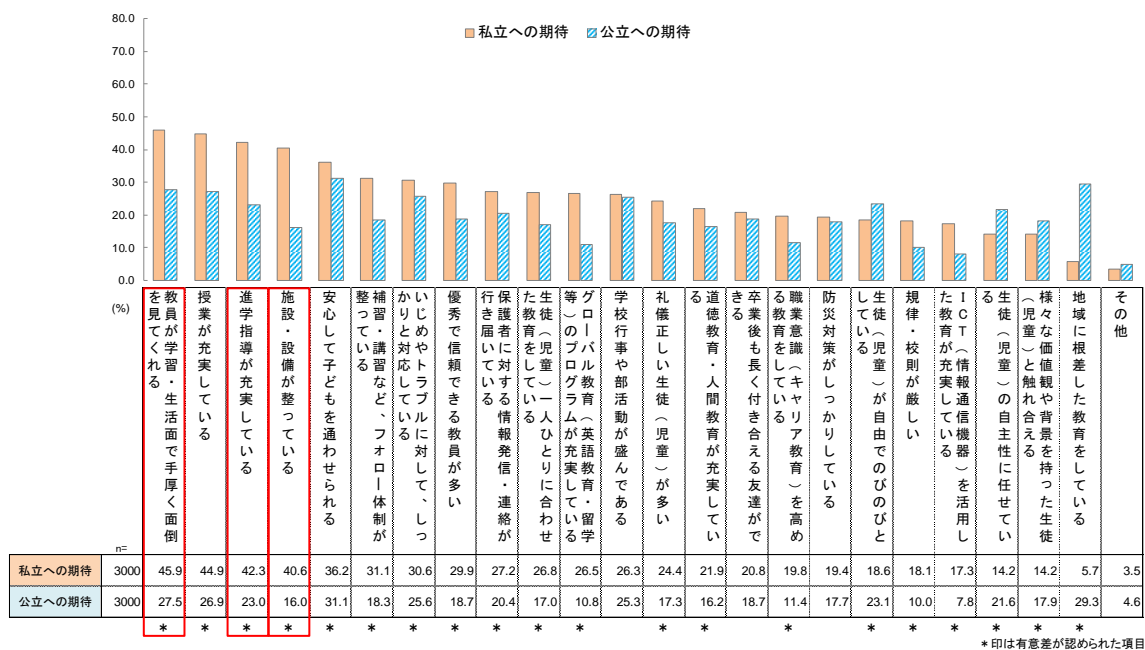
次に、私立在籍者・公立在籍者に今後私立学校に期待することについて聞いたところ、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」が私立在籍者・公立在籍者ともに高い回答率である(図表⑧)。

私立学校に期待することと公立学校に期待することの差を見ると、多くの項目で私立の回答率が高いことがわかる。期待の差が大きかった項目は「施設・設備が整っている(私立 40.6%、公立 16.0%)」「進学指導が充実している(私立 42.3%、公立 23.0%)」「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる(私立 45.9%、公立 27.5%)」である(図表⑨)。

図表⑧ 今後私立学校に期待すること



図表⑨ 今後私立学校に期待することと公立学校に期待することの差

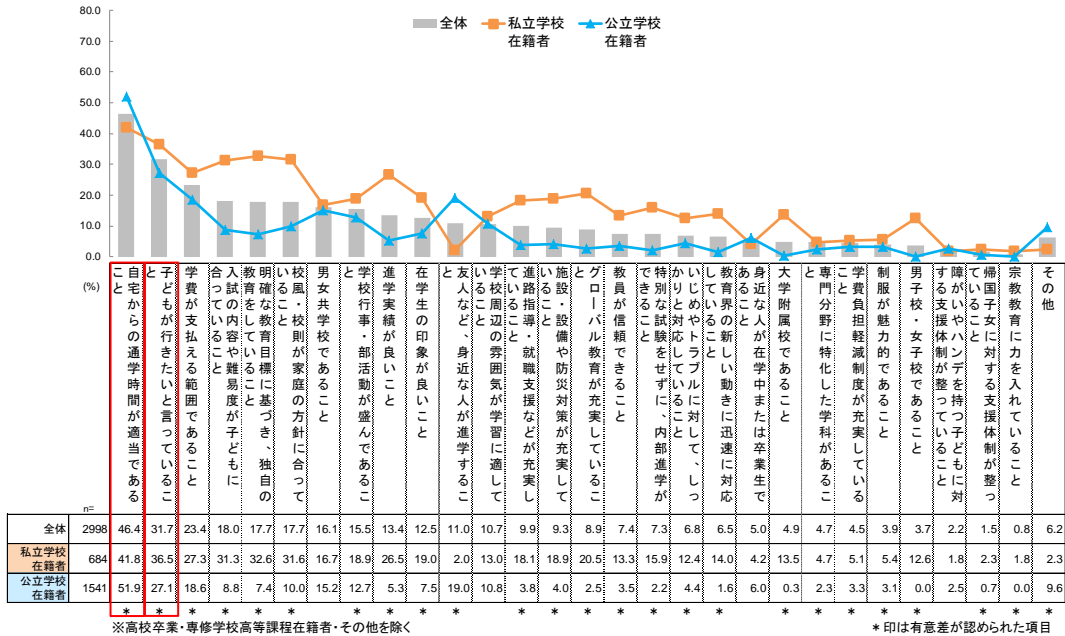


5. 学校選択で重視した点

全体を見ると、公立私立ともに「自宅からの通学時間が適当であること」の回答率が最も高く、「子どもが行きたいと言っていること」が続く(図表⑩上)。

選択基準の上位3番から5番の項目を見ると、私立在籍者は「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること」「校風・校則が家庭の方針にあっていること」「入試の内容や難易度(偏差値)が子どもに合っていること」であるのに対し、公立在籍者は「友人など、身近な人が進学すること」「学費が支払える範囲であること」「男女共学校であること」である(図表⑩下)。

図表⑩ 現在在籍している学校を選んだ際に、重視していた項目



学校選びで重視した項目	全体順位	私立順位	公立順位
自宅からの通学時間が適当であること	1	1	1
子どもが行きたいと言っていること	2	2	2
学費が支払える範囲であること	3	6	4
入試の内容や難易度が子どもに合っていること	4	5	10
明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	5	3	12
校風・校則が家庭の方針に合っていること	5	4	8
男女共学校であること	7	13	5
学校行事・部活動が盛んであること	8	10	6
進学実績が良いこと	9	7	14
在学生の印象が良いこと	10	9	11
友人など、身近な人が進学すること	11	27	3
学校周辺の雰囲気が学習に適していること	12	18	7
進路指導・就職支援などが充実していること	13	12	17
施設・設備や防災対策が充実していること	14	10	16
グローバル教育が充実していること	15	8	21
教員が信頼できること	16	17	18
特別な試験をせずに、内部進学ができること	17	14	24
いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	18	20	15
教育界の新しい動きに迅速に対応していること	19	15	25
身近な人が在学中または卒業生であること	21	24	13
大学附属校であること	22	16	27
専門分野に特化した学科があること	23	23	23
学費負担軽減制度が充実していること	24	22	19
制服が魅力的であること	25	21	20
男子校・女子校であること	26	19	28
障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	27	28	21
帰国子女に対する支援体制が整っていること	28	25	26
宗教教育に力を入れていること	29	28	28
その他	20	25	9

…上位3～5番目の項目のうち、私立の順位が高い項目

…上位3～5番目の項目のうち、公立の順位が高い項目

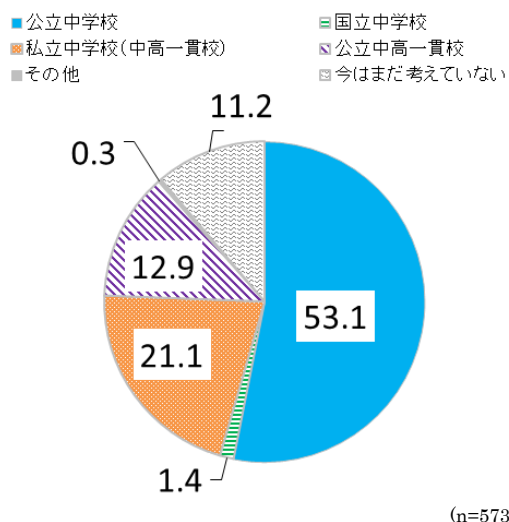
6. 進学希望

公立小学校在籍者に対し、進学させたい中学の学校設置者別を聞いたところ、私立が 21.1%、公立が 53.1%である(図表⑪)。また、公立中学校在籍者に対し、同様の質問をしたところ、私立が 8.4%、公立が 74.4%であった(図表⑫)。

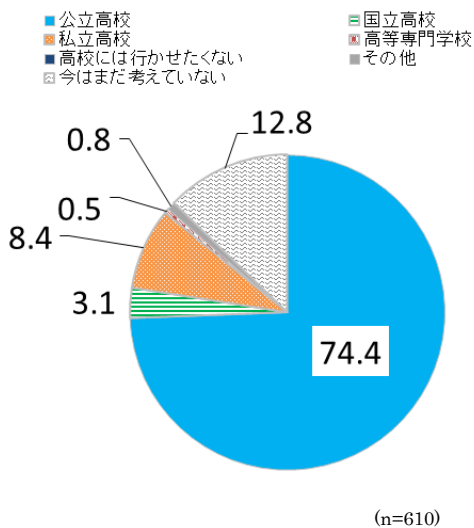
公立学校への進学を希望している保護者に、「どのようなことが実現されれば、私立への進学を検討しますか」と聞いたところ、約 8 割の人は「授業料などの学費が安いこと」を挙げ、約 4 割の人は「教育費負担を軽減する制度があること」を挙げた。また、「通学がしやすいこと」も約半数の人が挙げている(図表⑬)。

同じ質問の回答の中で「どのようなことがあっても私立への進学は検討しない」と答えた人は 4%である。

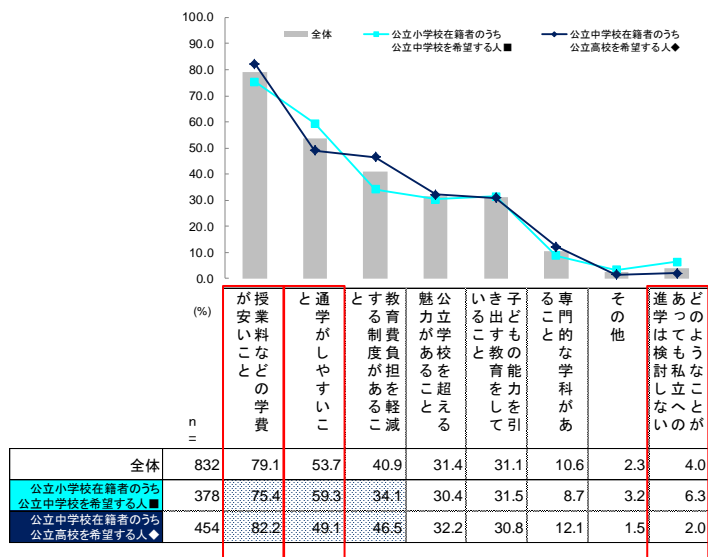
図表⑪ 子どもの進学希望(中学校)



図表⑫ 子どもの進学希望(高等学校)



図表⑬ どのようなことが実現されれば私立への進学を検討するか



【私立学校の評価】

■□イメージ□■

私立学校に対するイメージは、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」「授業が充実している」などの項目の回答率が高く、**良い教育環境で充実した教育が受けられるというプラスのイメージを持たれている**。その一方で、「授業料等の学費以外にもお金がかかる」というイメージは、特に公立在籍者の回答で上位となっている。

私立学校に対するイメージを私立在籍者と公立在籍者で比較すると、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」「安心して子どもを通わせられる」「卒業後も長く付き合える友達ができる」といった「実際に私立に通わなければ実感できないこと」でイメージの差が見られる。

また、私立と公立のイメージの回答率を比較すると、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」「授業が充実している」の他にも多くの項目で私立のイメージの回答率が高いことから、**私立の校風や教育内容の多様性が回答率に反映されている**。また、公立と比較して回答率が高い項目を見ると、「保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている」や「いじめやトラブルに対してしっかりと対応している」などがあり、**私立に対して安心感を持っていることがわかる**。

■□在籍校の評価□■

私立在籍者の評価は、イメージと同様に、全体的に回答率が高く、**私立に対して幅広く高い評価をしていることがわかる**。項目では「教員が学習・指導面で手厚く面倒を見てくれる」「施設設備が整っている」が上位に位置しており、このような**教育内容、環境等に対する満足感が「授業料等の学費以外にもお金がかかる」を上回る結果となった**。そのほか、**授業や進学指導、グローバル教育等に対する評価も高い**。このことから、**私立在籍者は、費用の負担感以上に私立に対して魅力を感じている**。

■□イメージと評価の差□■

私立は多くの項目でイメージと評価が近いが、イメージ以上の評価をされていることがわかる。

■□今後学校に期待すること□■

私立は多くの項目が期待されていることがわかる。特に「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれること」は私立在籍者・公立在籍者ともに高い回答率である。

■□学校選択で重視した点□■

「通学時間が適当であること」「子どもが行きたいと言っていること」の他に「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること」「校風・校則が家庭の方針にあっていること」「入試の内容や難易度(偏差値)が子どもにあっていること」という理由が上位であり、**公立と比較すると、私立在籍者は教育面を重視して学校選びをしていることがわかる**。

【公立学校の評価】

■□イメージ・評価□■

公立学校のイメージ・評価ともに、私立と比較すると全体的に回答率は下がるものの、「生徒が自由でのびのびとしている」「生徒の自主性に任せている」といった項目の回答率が高い。

■□学校選択で重視した点□■

公立在籍者は、学校選びの際、「通学のしやすさ」「本人の希望」の他に「友人など身近な人が進学すること」といった点を重視している。地元のつながりを大切にしたいという姿勢が学校選択の基準となっている。

【公立在籍者の進学希望】

公立在籍者の私立中学への進学希望は21.1%、私立高校へは8.4%となった。

公立への進学希望者に対し、私立への進学を検討する条件について聞いたところ、約8割が「授業料などの学費が安いこと」、約5割が「通学がしやすいこと」を挙げた。「どのようなことがあっても私立への進学は検討しない」と答えた人は4%にとどまり、**ほとんどの層は私立への進学に検討の余地がある**という結果となった。

第3章 教育費・保護者の価値観

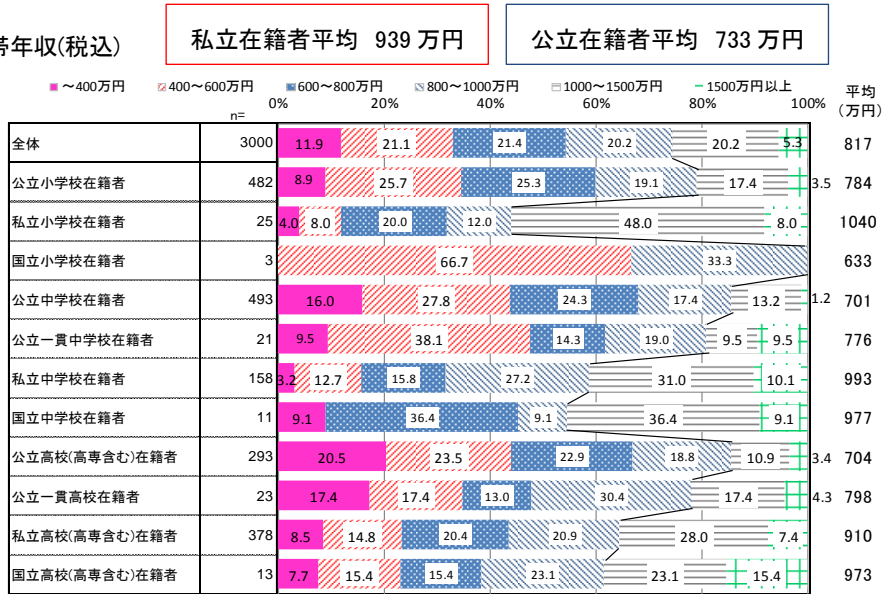
本章では、各家庭の教育費に焦点を当て、月々の許容教育費や教育費を確保するためにしていること、教育費負担軽減制度の認知度について私立・公立在籍者別、世帯年収別に分析した。また、子どもの教育に対する保護者の考え方の傾向を調べた。

1. 許容教育費

世帯年収を私立・公立在籍者別に見ると、私立在籍者の平均世帯年収は、公立在籍者と比べて、200万円以上高い(図表⑭)。

月々の許容教育費の平均額は、私立在籍者が公立在籍者よりも約2万5千円多い(図表⑮)。子どもの人数別に許容教育費を比較すると、子どもの数が「2人」の平均額は、私立在籍者が公立在籍者を約2万円上回る(図表⑯)。

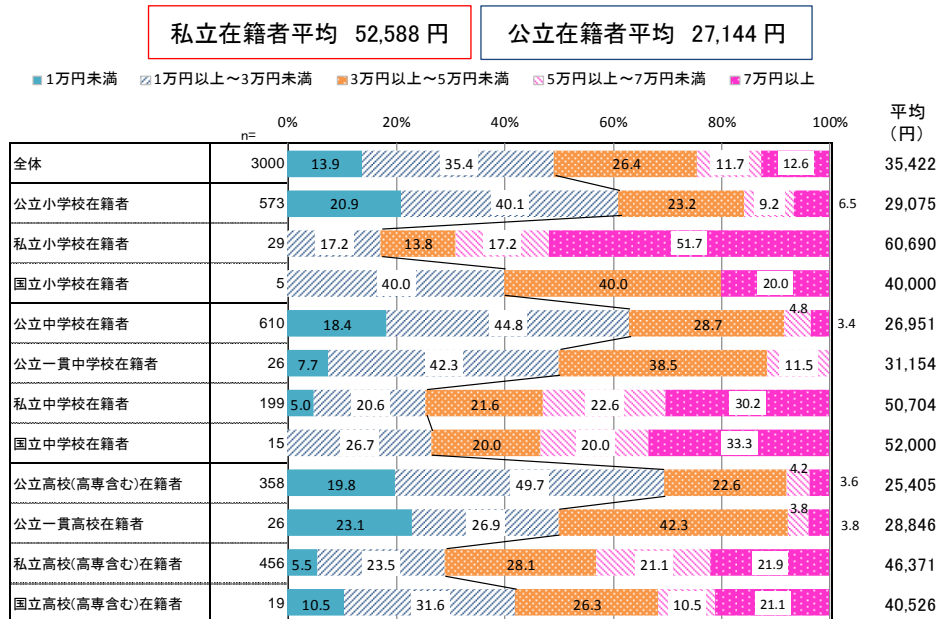
図表⑭ 世帯年収(税込)



※1.「答えたくない」を除いて内訳を示した。

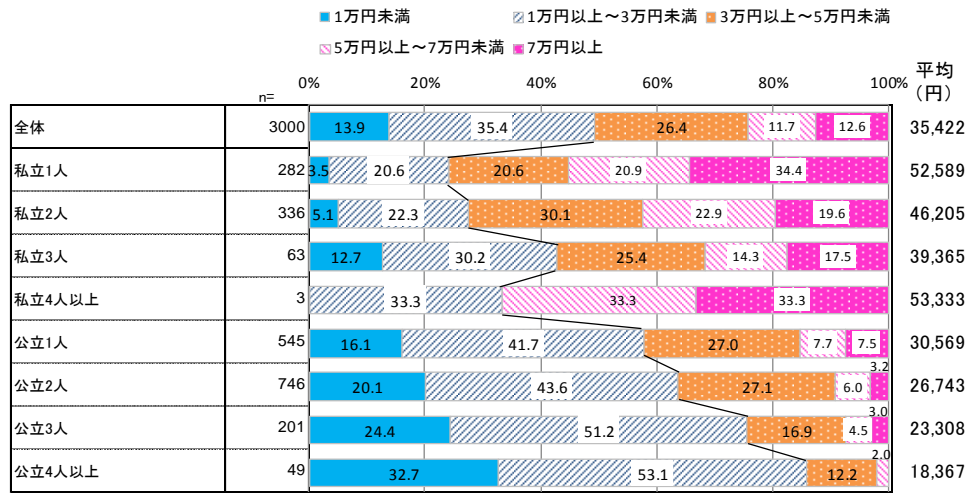
※2.平均値は「~400万円」=300万円、「1500万円以上」=1750万円として算出した。

図表⑮ 子ども一人あたりの月々の許容教育費



※1.平均値は「1万円未満」=5,000円、「7万円以上」=8万円として算出した。

図表⑯ 子ども一人あたりの月々の許容教育費(子どもの人数別)

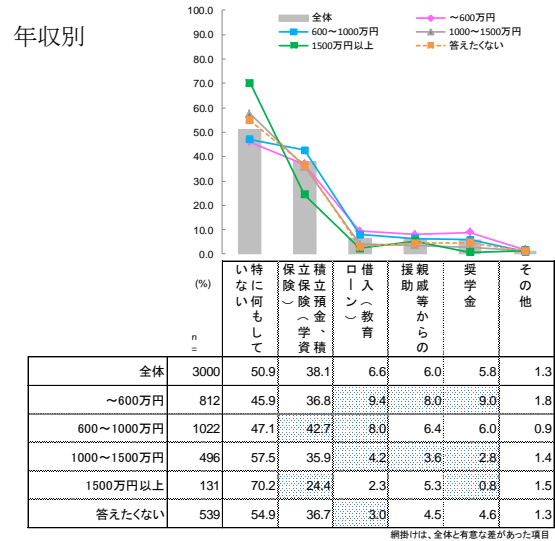
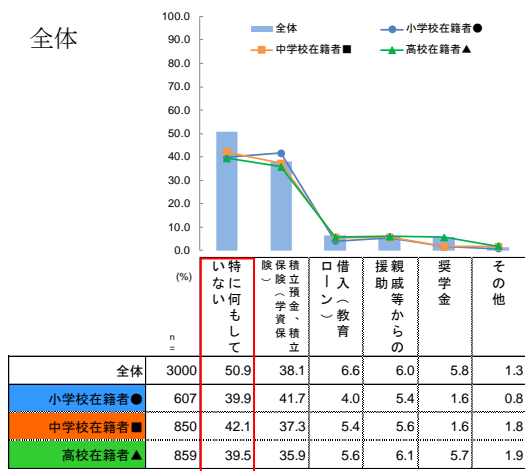


※1.平均値は「1万円未満」=5,000円、「7万円以上」=8万円として算出した。

2. 教育費

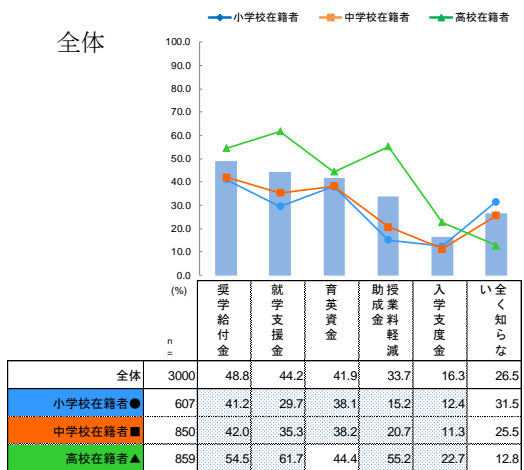
教育費確保のために積立預金など何もしていない人が5割を超えており、年収による差もない(図表⑰)。教育費負担軽減制度についても、奨学金給付金や就学支援金については4割以上の認知度があるが、授業料軽減助成金や入学支度金制度は認知度が低い。また、教育費負担軽減制度について全く知らない人も3割弱存在する(図表⑱)。

図表⑰ 教育費を確保するためにしていること

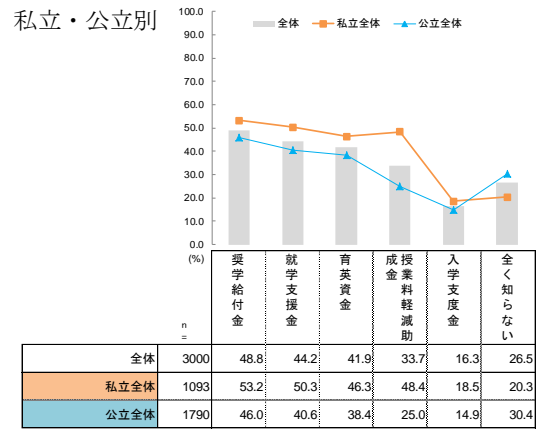


網掛けは、全体と有意な差があった項目

図表⑱ 教育費負担軽減制度の認知度



網掛けは、全体と有意な差があった項目



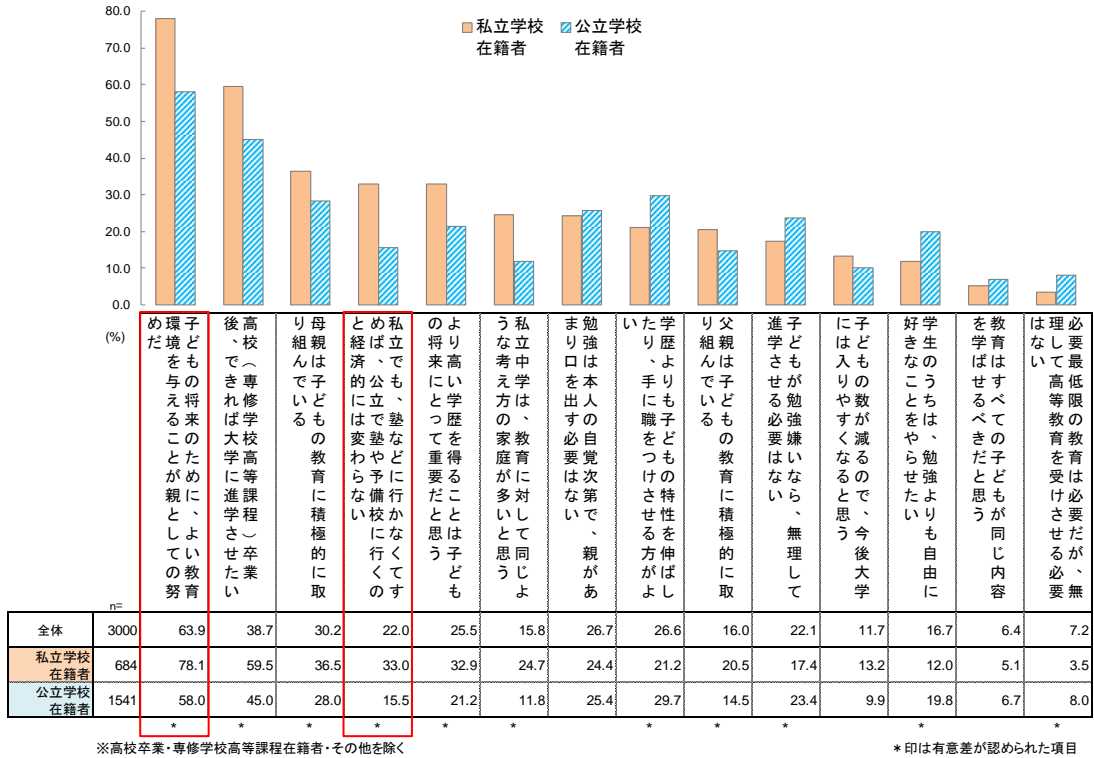
*印は有意差が認められた項目

3. 保護者の考え

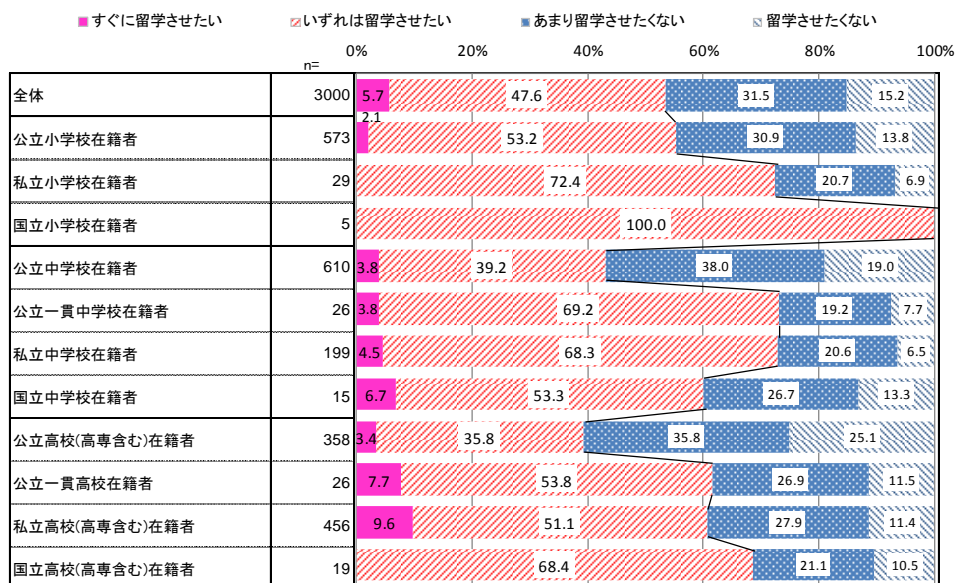
私立在籍者は「子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親の努めだ」という考えの回答率が約8割である(図表⑱)。また、公立在籍者は、「学生のうちは勉強よりも自由に好きなことをやらせたい」「学歴よりも子どもの特性を伸ばしたり、手に職をつけさせる方がよい」といった考えの回答率が私立と比較して多い(図表⑱)。

私立と公立を比較すると、「私立でも、塾などに行かなくてすめば、公立で塾や予備校に行くのと経済的には変わらない」という考えについては、私立在籍者が公立在籍者の回答率を約20%上回った(図表⑱)。また、子どもを留学させたいかどうかを聞いたところ、「すぐに留学させたい」「いずれは留学させたい」の回答率が、私立在籍者は6~7割、公立在籍者は4~5割と私立在籍者が公立在籍者を上回る(図表⑳)。

図表⑱ 子どもの教育に対する保護者の考え



図表⑳ 子どもを留学させたいか



第3章 教育費の確保・保護者の価値観のまとめ

【世帯年収と教育費確保】

■□世帯年収と許容教育費□■

世帯年収を、私立在籍者世帯と公立在籍者世帯とで比較すると、私立在籍者世帯の方が高い。また、子ども一人当たりの許容教育費についても私立在籍者世帯の方が高い結果となった。

■□教育費と学費負担軽減制度の認知度□■

教育費確保について、積立預金など何もしていない世帯が半数を超えている。また、学費負担軽減制度については、制度の対象である高校在籍者の認知度は他の学種と比較すると高いが、中学校在籍者の認知度は低い。このことから、**学費負担については、早期の教育費確保の働きかけや中学校在籍者の学費負担軽減制度の認知度を高めることで進学の際の選択の幅が広がると考えられる。**

【保護者の教育に対する意識】

■□私立在籍者と公立在籍者の意識□■

私立在籍者は、父親と母親の教育への関与度が公立在籍者と比較して高く、**学習や学歴を重視する考え方や留学に対して高い意識を持っている傾向にある。**「良い教育環境を与えたい」という思いは私立・公立ともに高く、私立では約8割である。

■□学費負担と保護者の価値観□■

「私立でも、塾などに行かなくてすめば、公立で塾や予備校に行くのと経済的には変わらない」と考える割合は、公立在籍者よりも私立在籍者の方が高い。このことから、**私立在籍者には進学指導や補習などフォロー体制の充実を学費負担に見合うものと考えている層がいる。**

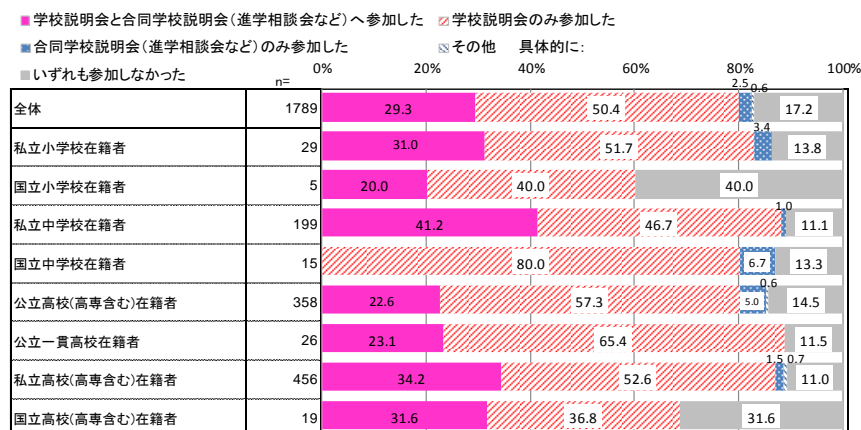
第4章 私立の情報発信と進学理由

本章では、第2章「私立へのイメージ・評価」であった「学校選びで重視していること」の結果をふまえ、学校選びには欠かせない「合同学校相談会」「学校説明会」について、参加の有無と、それぞれで注目した点を調べた。また、現在通っている学校に進学した理由も併せて聞き、最終的に何が進学の決め手になったかを探った。

1. 学校説明会の参加有無

学校種別にみると、ほぼすべての種別で「学校説明会と合同学校説明会へ参加」「学校説明会のみ参加」の回答が約8割となる。私立中学校は41.2%が学校説明会・合同学校説明会へ参加しており、すべての学校種別の中で最も高い割合である(図表②)。

図表② 学校選択をするにあたっての学校説明会・合同学校説明会の参加有無



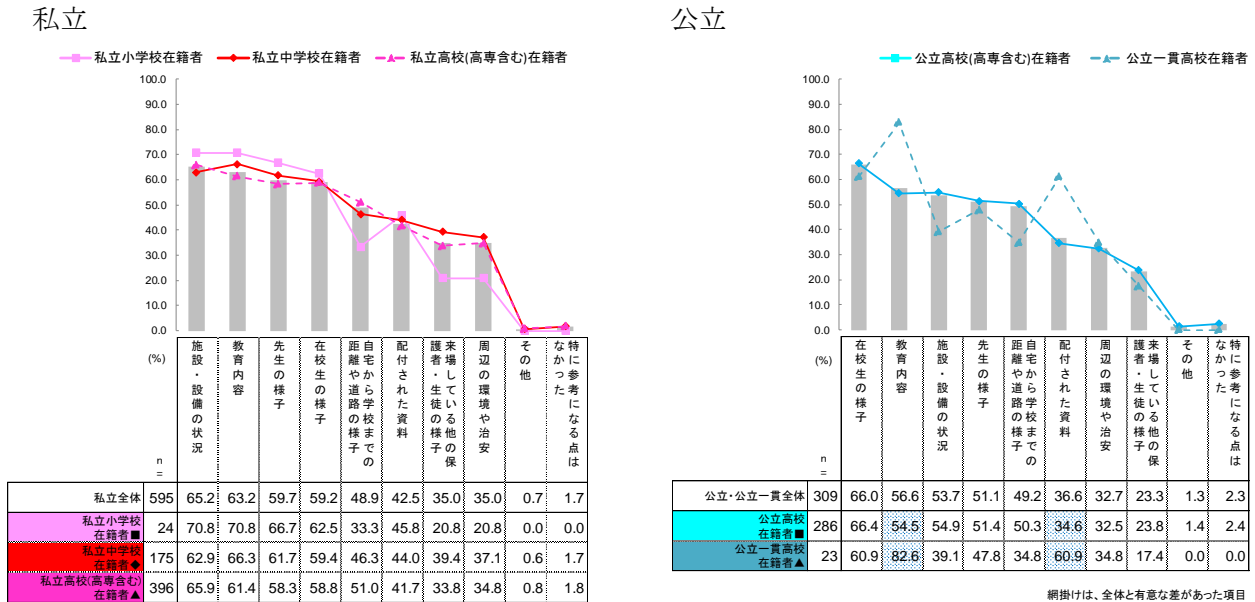
2. 学校説明会参加者が注目した点

「学校説明会・合同学校説明会に参加した」または「学校説明会に参加した」と回答した人に、学校説明会で参考になった点を質問した。

私立は、全体で最も回答率が高い項目は「施設・設備の状況」で、次いで「教育内容」「在校生の様子」となった。小学校・中学校・高校でも同様の結果が見られる(図表㉒)。

公立は「教育内容」「配布された資料」で公立と公立一貫の差が見られる(図表㉒)。

図表㉒ 学校説明会で参考になった点

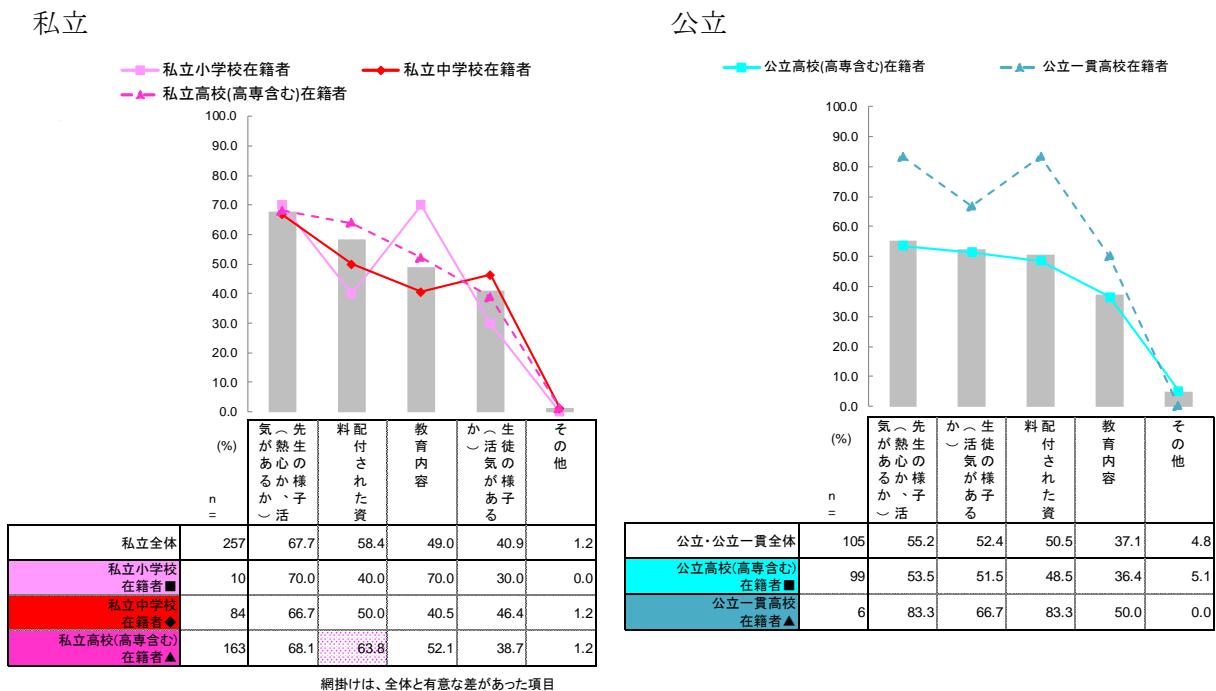


3. 合同学校説明会参加者

「学校説明会・合同学校説明会に参加した」または「合同学校説明会に参加した」と回答した人に、合同学校説明会で参考になった点を質問した。

全体で最も回答率が高い項目は「先生の様子(熱心か、活気があるか)」である(図表㉓)。

図表㉓ 合同学校説明会で参考になった点

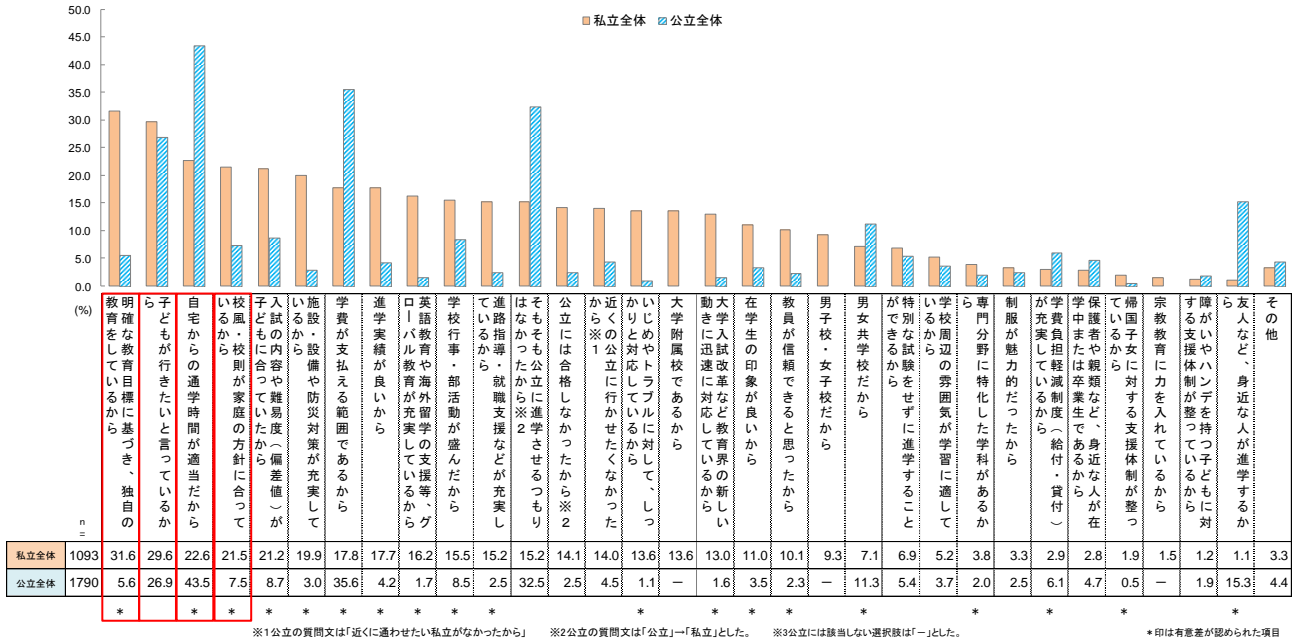


4. 進学理由

次に、私立学校と公立学校の進学理由を比較した。

私立学校の進学理由は「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから」「子どもが行きたいと言っているから」「自宅からの通学時間が適当だから」「校風・校則が家庭の方針に合っているから」といった項目で回答率が高い。公立学校は「自宅からの通学時間が適当だから」が最も回答率が高い項目である(図表⑳)。

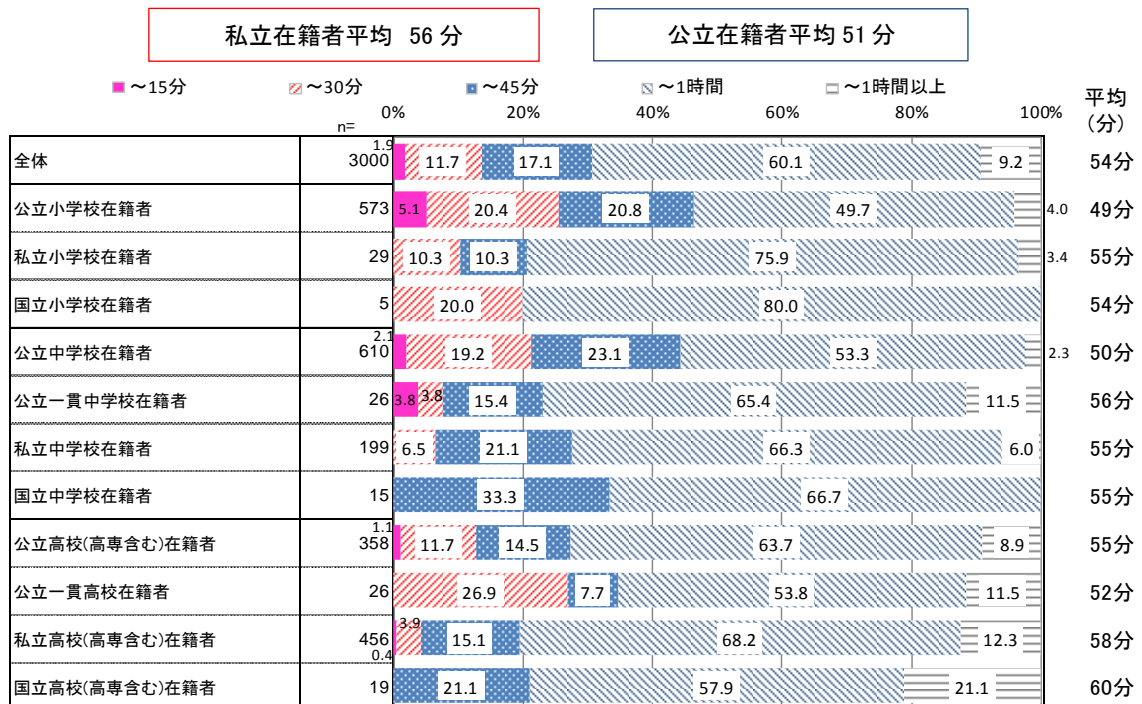
図表⑳ 私立学校と公立学校の進学理由の差



5. 通学時間

通学時間の許容範囲を開いたところ、全体の平均通学許容時間は54分である。私立在籍者の平均時間は56分、公立在籍者の平均時間は51分である(図表㉑)。

図表㉑ 通学に最大かけられる時間



第4章 私立の情報発信と進学理由のまとめ

【私立の情報発信】

全体の約8割が学校選びの際に「学校説明会」や「合同学校説明会」に参加している。

学校説明会では「施設・設備の状況」といった実際に学校に足を運ばないとわからない点を、合同学校説明会では、その時に対応した先生の様子を参考にしていることがわかる。

【進学理由】

進学理由を私立在籍者・公立在籍者で比較すると、**全体的に私立在籍者の回答率が高い**。中でも「明確な教育目標に基づき独自の教育をしているから」が私立在籍者で最も回答率が高く、**各学校の特長を検討し自分に合った学校を選び進学していることがわかる**。また、公立在籍者は「通学時間が適当だから」が最も高い回答率になった。

【通学時間】

許容範囲の通学時間について聞いたところ、全体の平均通学許容時間は54分であった。私立在籍者と公立在籍者を比較すると、その差は5分である。

第5章 全体まとめ

私立への評価・期待

【私立在籍者の評価】

私立在籍者の私立学校に対する評価は高く、**教育内容に満足している**という結果となった。特に、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」という点で満足度が高く、教員の熱心な指導が高い評価を得ている。また、グローバル教育やICT教育などの先進的な教育に対する評価も高いと言える。

【私立への期待】

私立へ期待することと公立へ期待することを比較すると、多くの項目で私立が公立の回答率を上回っており、**私立在籍者は私立学校に対して広く期待していることがわかる**。

【私立のイメージ、期待と評価の相関】

私立のイメージと評価の相関を見ると、イメージと評価に大きな差はなく、項目によっては評価の方がより高いものもある(図表⑥)。また、私立と公立の期待と評価の相関を比較すると、**公立は、学校への評価よりも期待が上回り、要望されている項目が多いが、私立は評価と期待する項目が均衡している項目が多く、評価している点に対し、さらに充実を期待している傾向が見られる(図表⑥⑦)**。

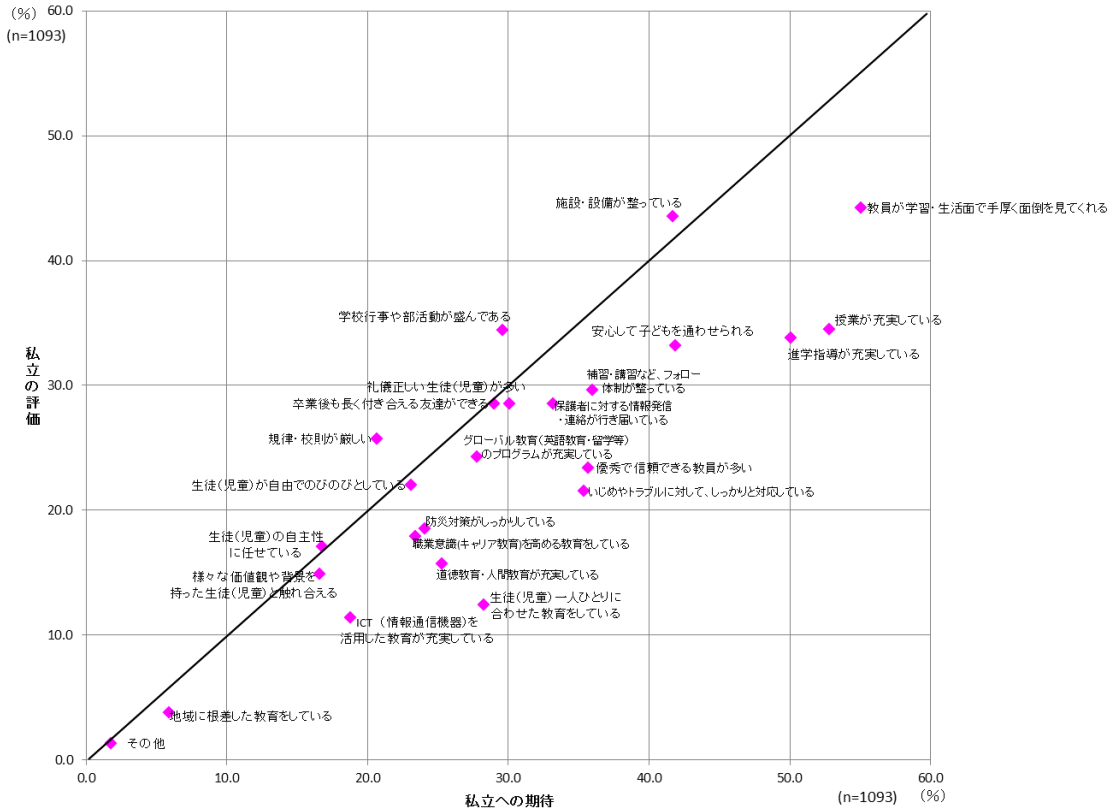
【私立在籍者の学校選択基準】

学校選択についても、**学校独自の教育目標や教育内容に対する理解をしたうえで、家庭の方針にあった学校を選択していることがわかる**。また、本人が進学したいと言ったかどうかが学校選択において重視されている。

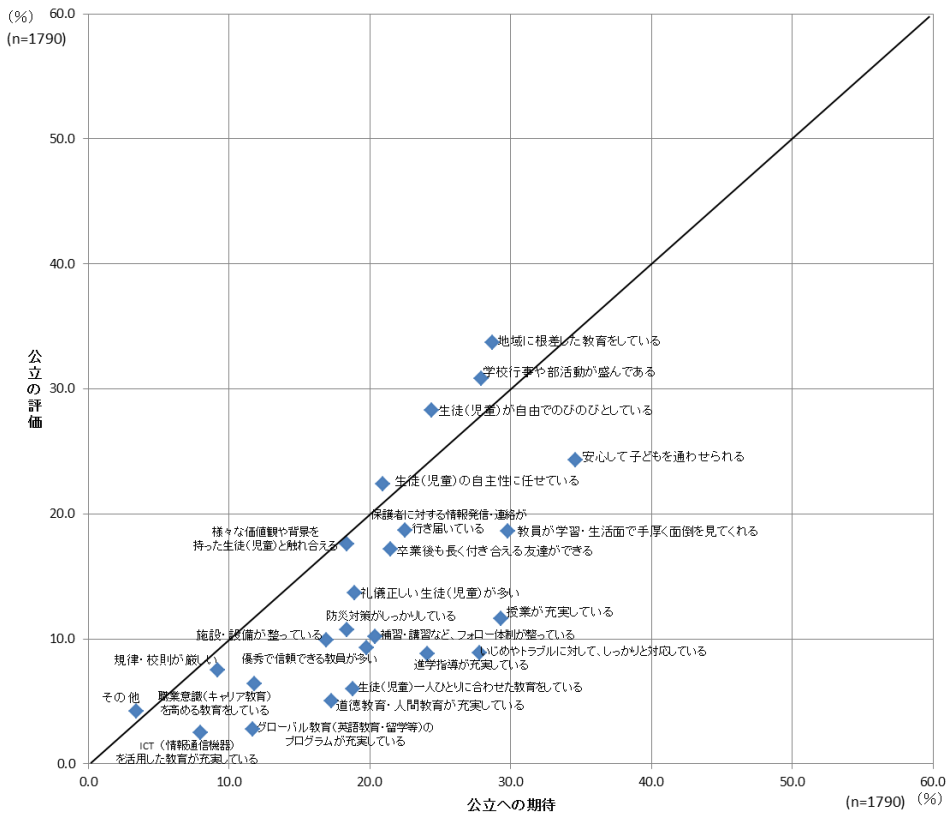
【学費負担に対する考え方】

学費負担については、費用の負担感以上に私立への魅力を感じ、補習などのフォロー体制の充実を学費負担に見合うと考えている保護者もいることがわかる。一方で、**公立在籍者にとっては、私立学校の学費等の負担が大きいといったイメージが先行しがちであることもわかった**。

図表②⑥ 私立への期待と評価



図表②⑦ 公立への期待と評価



私立を取り巻く状況

【公立在籍者の私立への進学意欲】

公立在籍者の私立への進学意欲を見てみると、ほとんどの層は私立への進学に検討の余地があることがわかる。特に、学費の負担や通学のしやすさという点がクリアされれば進学の際の選択の幅が広がると考えられる。

【子どもにかかる教育費】

世帯年収や子ども一人当たりの許容教育費を見てみると公立在籍者より私立在籍者の方が高い結果となった。しかし、教育費確保のための積立預金など何もしていない家庭も多いことから、より広い層に私立への進学を検討してもらうには、**早期の教育費確保を働きかけることが効果的である**。また、併せて、**学費負担軽減制度の認知度を高めることも必要である**。

【保護者の考え】

私立在籍者の8割、公立在籍者の6割が「子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親の努めだ」と考えている。また、私立在籍者の6～7割は「子どもを留学させたい」と考えており、学校選びで重視していた項目や進学理由からもグローバル教育の充実が今後の学校選択において重要なポイントになると考えられる。

【進学理由と通学時間】

現在通う学校への進学理由は、「自宅からの通学時間が適だから」の回答率が高い(私立:22.6%、公立:43.5%)。

通学のしやすさについては、通学時間・経路等が判断要素となりうるが、**身近に子どもに合った学校があることを知ってもらうための情報発信を工夫することで、私立の良さを実感してもらう機会を増やすことが可能であると考えられる**。

私立への関心を高めるために

私立学校に対しては、私立・公立在籍者の双方から、良質で充実した教育を提供しているとのイメージを持たれ、多様な魅力があることも認識されている。しかし、私立学校に対するイメージの中でも、実際に通わなければ実感できないことに対しては、私立在籍者と公立在籍者で差が見られる。

公立在籍者も多くが「子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親の努めだ」と考えている。よって、**私立学校が行う充実した教育を受けるメリットを伝えて、「私立学校にはよい教育環境が整っている」というイメージをさらに深め、私立学校の教育内容に対する学費負担への納得感を醸成する取組は今後も継続する必要があるといえる**。その上で、**各学校が実践している「私立ならではの良質な教育」を具体的に伝えることで教育への期待感や進学意欲を高めたり、説明会やイベントを通して身近に子どもに合った私立学校があることを発見してもらう機会を増やしたりすることも、各学校への関心を高めるために効果的である**。

また、合同学校説明会で教員の様子を参考とする割合が高いことや、教員の面倒見の良さが私立在籍者からの評価が高い点を勘案すると、**教員の熱意や取組姿勢を的確に伝えていくことも、学校選択や入学後の満足度に大きく貢献する可能性は高いと考えられる**。